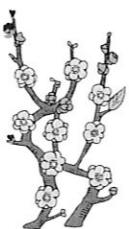


主催：学生相談室
講師：浦田 英範 氏(静光園第二病院)
日時：2月10日(火) 16:30より
場所：修己館2階 音楽鑑賞室
対象：1～3年の希望者

運動できる服装(ジャージ)で来てね





Q & A

今回も好評につき、前回同様「Q&A」形式の記事を掲載します。皆さんのよきアドバイスになる事でしょう。質問の内容は次の4項目です。



Q1 高校・高専時代は、どこに住んでいましたか？

Q3 どのようにして悩みを解決されましたか？

Q2 高校・高専時代に悩んだことはどんなことでしたか？

Q4 学生への伝言をお願いします。



石崎 勝典 学科：共通専門／勤続38年目

A1 福岡市の博多山笠で有名な櫛田神社近くの店屋町に住んでいた。高校までは山笠にもよく出ていた。

A2 高3の時、(1)大学受験 (2)金鶯旗柔道大会出場 (3)ボーアスカウト世界ジャンボリー大会（於フィリッピン）参加のどれを最優先するかで真剣に悩んだ。次のような背景があり、人生の岐路に立たされたような気持だった。

・大学受験…当時最大の目標であった。フィリッピンまで往復2週間の船旅であり、帰るとすぐ日本ジャンボリー大会に参加し、帰国報告もしなければならない。約2ヶ月間受験勉強が

できなくなる。

・柔道大会…猛練習の毎日であり、帰宅も遅く、食事、風呂、寝る(バタンキュウ)、勉強どころではなかった。先輩から「授業中は居眠りなどせず、授業に集中しろ」と厳しく言われ、忠実に守った。副キャプテンもあり、高校生活最後のこの大会には是非とも出場したかった。

・世界ジャンボリー大会…小学校4年以来ボーアスカウトを続けていた。世界大会に参加できるとは夢のまた夢であったのに、福岡県連の推薦で日本代表の1人に選ばれた。

A3 柔道部の親友より「ジャンボリー大会は4年に1回の開催、今行かないと2度と参加できないぞ。大学入試は毎年あるではないか。柔道大会は俺達で頑張るから心配するな」との強烈なアドバイスを受けた。悩みに悩んだ末、ジャンボリー大会への参加を決断した。全校生徒の前の壮行会で、校長より励ましの言葉をいただいた時にはとても誇らしく思えた。またその決心のせいかどうか、浪人するようになった時は両親に對して大変申し訳なく思った。

A4 (1)身体を傷つけることなく、寿命を全うすること
(2)人生、いつも100点を目指す必要はない

(3)人生の分岐点では、悩みに悩め。しかし、決断したら過去を振り返らず、ただひたすら前進あるのみ



近藤 誠四郎 学科：電気工学科／勤続38年目

A1 福岡県柳川市です。現在も同じ所に住んでいます。近くなので皆さんも知っていると思いますが、旧柳河藩の城下町で、詩人北原白秋の出身地です。今は川下りが、よく知られています。

A2 人、自分が何のために生きているのか。犬猫や虫けらなど、全ての生物にも生きる意味があるのか。親や身近な人達の生活とは、ほとんど無関係の教科を勉強しなければならない理由。貧弱な体格の悩みなど、性格が内へ向かうほうなので、そのほかにもいろいろ悩みました。

A3 友人と話したり、自分で考え、悩みました。自分で一生懸命考えた末に出した結論は、人生も勉強も、そのときやるべきことを一生懸命やってみるということでした。しかし、歳とともにいい加減さが身に付き、そんな生き方をしてきたわけではありませんが…その他の悩みもはっきりと解決してはいませんが、歳を取り、様々なことを経験するに従い、解決したものもあります。

ラジオを作ったりすることが好きで、大学の電子工学科へ進み、電子関係の技術者になるという、目標がはっきりしていたことが、悩みの多い状況での救いだったようにも思います。体格についての悩みは、自分なりに努力しましたが、その後も解決できませんでした。

A4 もうすぐ桜の季節がやってきますが、さくらは寒い冬を乗り越えて、初めてきれいな花を咲かせるそうです。暗闇を知っている人には、一筋の光の有り難さがわかります。苦しいことから逃げないで、耐えて、克服してください。時間が解決してくれるものもあります。



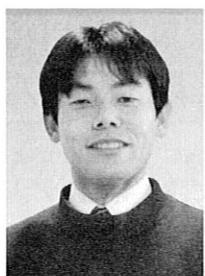
吉武 紀道 学科：物質工学科／勤続34年目

A1 小学高学年から高校2年までは、福岡市中央区の旧・西小姓町に住んでいた。高校2年の終わりに新築住宅の籠にあたり早良区飯倉に転居し、32年間そこで暮らし、通った。便所に行くのも不自由で、雨が降れば傘が必要だったし、暗くて懐中電灯で足もとに気をつけなければならなかった。勉強部屋はなく皆で過ごす居間の隅っこに机を置いた。しかしそこに住んでいたときが私の最も勉強した時期である。

A2 高校3年、新築の住宅に入ってまもなく、頬の赤みがとれなくなった。両頬（右側がより赤かった）は常に熱っぽく赤かった。それを常に意識するので、その状態を忘れるのは眠っているときしかなかった。それはいつまでも続いた。大学時代、就職してからも。電車の中で乗客の視線に耐えられず座席に座れなかった。新しく勉強することが記憶にとどまらなくなった。これが私の青春時代のなやみのすべてである。

A3 時間が解決するほかなかった。それでは克服したとはいえない。趣味の音楽に救われたと言うべきか。まだ余り知られてなかったグスタフ・マーラーの音楽を長期にわたって聴き続け、ほぼ全作品を聴き、いろんな形で（LP、CD、ビデオ、生の演奏）体験した。のちに頬が赤くなった原因是、新築住宅の建材に使われていたホルムアルデヒド等の粗悪な防腐剤から起きる“シックハウス症候群”ではなかっただろうかと考えている。

A4 学生は勉強することが本分である。それ以外にない。



坪根 弘明 学科：機械工学科／勤続5年目

A1 福岡県田川郡香春町に住んでいました。北九州市の南隣の町で、香春岳から採れる石灰石で有名な町です。この山は全体が石灰岩で出来てあり、山を頂上から露天掘りしていく、現在では高さが元の半分程度までになっています。青春の門という映画にもでて、それで有名になりました。

A2 高校時代の悩みと言えば、勉強・部活・恋愛・人間関係など多くの悩みがありました。例えば、部活だとバレーボール部に所属していたのですが、高校からバレーを始めた私はへたくそで、技術はもちろんジャンプ力もあまりなくほとんど戦力としては貢献できていませんでした。しかし、人数が少なかったので監督は私をレギュラーとして使ってくれましたが、チームに貢献できていないことを自覚していたので試合のたびに憂鬱な気分になっていました。（今考えると大した事ではないんですけどね…）

A3 チームメート全員に助けられたのはもちろんですが、一番良いアドバイスをくれたのがそのときのキャプテンで、「アタックを決めるることは期待しない。でも、このチームの中で何でもいいからあ前ができるで貢献しろ」と言われ、サーブやレシーブ、アタックでの回でチームに貢献することでチーム内での自分の居場所を見つけることができたように思います。団体競技の有り難さを改めて感じましたね。

A4 ちょっとクサイかもしれません、夢を持って頑張ってほしいです。やはり夢を持って頑張っている人は年齢や男女を問わず魅力的ですよね。皆さんの中で一人でも多くの人が夢を叶えることを期待しています。



下田 誠也 学科：建築学科／勤続11ヶ月目

A1 熊本県八代市平山新町にある八代高専の学生寮「八龍寮」から通っていました。八代市は、全国花火競技大会、イ草、晩白柚（ばんぺいゆ）が有名な町です。

A2 陸上競技部の副主将となり、“高専大会総合優勝”を目指して、部員を引っ張って行かなければならなかったのですが、私が授業や課題で練習にあまり参加できなかったこと、部員の練習に対する気持ちがバラバラだったために、なかなか部員とのコミュニケーションをうまく取ることができずに、私も部員も練習に身が入らないことが悩みでした。練習に行く時には気持ちが重くなるだけでなく、練習に行きたくないと思うこともありました。

A3 どんなに気持ちが重くても多少無理して、練習に毎日顔を出すこと、部員に話しかけることは心掛けようとした。その中で、“自分が楽しくないと他人も絶対に楽しくない”ということに気付いた私は、まず、“自分が楽しんで練習すること”だけを心掛けてみました。難しいことをあまり考えず、この“簡単な心掛け”で気持ちが楽になりました。幹部が一致団結して練習に取り組んだことも、大きな要因となつて徐々にですが、部内の雰囲気が良くなり、練習をさぼる人も少なくなったように思います。

A4 学生生活を楽しんでいますか？勉強、部活動、その他いろいろと毎日大変でしょうが、貴重な学生生活を楽しむないというのは損です。いろんなことにチャレンジしたり、マイナス思考をプラス思考に変えたり、いろんな人と接することによって、学生生活を楽しむための“きっかけ”を探し出すことから始めてみてはどうでしょうか。

